

評価委員会・小委員会における委員意見及び対応（案）（第13回小委以前）

No.	資料	委員意見	対応（案）
1	<第10回海域小委> 資料2	（古川委員） 海域は、陸域の流域や沿岸域全体として成り立っているため、現在の環境をみる上で、海域を取り巻く背景（社会風土、産業活動等）も含めて記載すべき。 （滝川委員） 経済活動作用などについても記載すべき。	「2章 有明海・八代海の概要」関連資料をお示しする際にご意見を踏まえた資料としたい。
2	<第11回海域小委> 資料全般	（松野委員）（滝川委員）（古川委員） 海域区分毎に区切って整理されているが、隣の海域からの流入については具体的に検討されるのか。	ご指摘の流量収支及び物質収支（懸濁物、栄養塩等）に関する数値シミュレーションの結果をお示した。<資料5 15頁>
	<第37回評価委> 資料全般	（古賀委員） 第35回評価委員会で、海域相互間のSS流入・流出等をシミュレーションすることが示されていたが、その結果が示されるとの理解でよいか。	
3	<第13回海域小委> 全資料	（樽谷委員） 年号と西暦が混在しているので、報告書内で統一された方がよい。	今回の検討では「1970年頃から現在までの環境変化」を対象としていることから、西暦での記載を基本として記載を修正した。なお、出典の関係から、一部については和暦も併記した。
4	<第13回海域小委> 資料6	（東委員） ベントスの減少や底質粒径の推移について、第3章の水質と同じように一目で海域別の変化・特徴がわかるように整理できないか。	ご指摘を踏まえ、「水質」と同様に回帰分析結果をまとめた表を追記した。<資料4-5 4頁, 7頁, 資料4-9 5頁>
5	<第13回生物小委> 資料7-1 (Y2海域)	（平山委員） ナルトビエイの駆除について、平成18年からの駆除量等のデータがあるので、このデータも掲載願いたい。	ナルトビエイの駆除は各種予算の範囲で実施しており、その駆除量をもってナルトビエイの来有量や有用二枚貝への影響の大きさを議論できないため、原案のとおりとする。